

日本新聞製作技術懇話会
広報委員会編集

編集人 下平 泰生
東京都千代田区内幸町
日本プレスセンタービル
8階 (〒100-0011)

電話 (03) 3503-3829

FAX (03) 3503-3828

<http://www.conpt.jp>

CONPT

CONFERENCE FOR NEWSPAPER
PRODUCTION TECHNIQUE JAPAN

VOL.45 No.1
2021.1.1
(通巻 265号)

日本新聞製作技術懇話会
会報 (隔月刊)
(禁転載)



目次

年頭のご挨拶	日本新聞製作技術懇話会 会長	木船 正彦	3
	日本新聞協会技術委員会 委員長	土井 昭人	4
コロナに負けない	東日印刷 T-pro シニアエディター	瀧永秀一郎	5
第73回新聞大会			6
楽事万歳	信濃毎日新聞社 製作局塩尻製作センター印刷部長兼総務課	高橋 裕喜	7
美味あっちこっち	パナソニックシステムソリューションズジャパン(株) 新聞システム部営業課	泉原 正和	8
わが職場あれこれ	朝日プリンテック 技術センター長	梶原 浩史	9
第46回年末全体会議			9
会員消息			9
会員名簿			10

- 表紙写真提供：山梨日日新聞社 赤尾 聡氏 「富士大石ハナテラス」
- 表紙製版：(株)デイリースポーツ
- 組版・印刷：(株)デイリースポーツ

年頭のご挨拶

技術が生み出す「新聞の力」

日本新聞製作技術懇話会 会長

木船 正彦

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

去年は、2月頃から新型コロナウイルスの感染が国内に広がりはじめ、政府が緊急事態宣言を発出する事態となり、様々な活動自粛を余儀なくされました。感染拡大が我が国の経済や国民生活に及ぼした影響は甚大なものがあります。

日本新聞製作技術懇話会(CONPT)としても、4月以降、評議員会、委員会などは集合方式での開催を控え、定時総会は書面表決方式に切り替えて対応せざるを得ませんでした。新聞社との技術対話、新工場見学会、技術研究会も軒並み延期・中止を余儀なくされました。コロナ禍は今も収束の兆しを見せず、活動の制約は続いており、依然として感染防止とその克服は世界共通の最重要テーマのひとつであります。

*

CONPTの今年の課題としては、コロナにより昨年は思うように発信ができなかった技術、例えば、労務対策関連技術またコストダウン関連技術でもあるDX関連技術やRPA関連技術、また環境・災害対応関連技術である廃液フリー技術や非常用電源・水供給関連技術、さらには広告増収関連技術であるAR (Augmented Reality)やVDP (Variable Data Printing)技術など、新聞業界より求められている種々の技術を具体化し、また一層高度化して発信してゆき

たいと考えています。

さらに、人工知能AIを新聞製作に活用する技術の開発が急速に進んでおり、記事の自動編集や自動要約、また紙面品質管理や資材・電力・部品等の節減といったコスト管理などにAIを活用することにより、日々蓄積されるビックデータの自動分析や最適化が瞬時にそして正確に行われるようになることが期待されています。このようなAIを活用する技術は、新聞製作分野における慢性的な人員不足に対する抜本的な解決策となる可能性があります。そして、AIによる新聞製作の最適化技術は、システムや機器の長寿命化、トラブルレス化を実現し、人件費を含めた大幅なコスト削減に貢献、かつ環境対応にも有効であることが期待されています。新聞業界の持つ様々な新聞製作上の課題に対し、CONPTがその技術的ソリューションを提供してまいりたいと願っているところです。

*

さて、CONPTの非営利型一般社団法人への組織変更が、先般の年末全体会議で承認されました。会員各社のご協力に感謝申し上げます。CONPTは新聞製作技術の改善・向上に貢献する目的で1975年に設立され、現在では任意団体の域を超えた活動を行っており、公共性、公益性を帯びた団体として社会的にも認知されています。CONPTのさらなる発展を図り、新聞業界から求められる使命を果たすべく法人化を行うものであります。今年4月に法人設立登記を行い、5月に新法人としての第一回総会を開催して新役員の選任等を行いたいと考えております。さらにCONPTの存在意義が高まれば幸いです。

逆境を跳ね返すチャレンジの年

日本新聞協会技術委員会 委員長
土井 昭人

新型コロナウイルス感染拡大が収束を見せないまま、2021年が幕を開けました。まだまだ今後の見通しは立ちませんが、ワクチンの摂取も一部の国でスタートし、少しずつですが光も見えてくるのではないかと期待しています。

*

2020年は、ほぼ1年を通してコロナ対策に追われた年でした。昨年のお正月には全く想像もしていなかったことが次から次へと起こり、新聞業界にとっても非常に厳しい対応に迫られました。日本新聞協会の災害対策特別委員会が行ったアンケートを見ても、取材現場から印刷・輸送・配達各現場で、感染者が出れば事業縮小や停止を免れないという緊張感のもと、事業継続のために各社が様々な対策を取ったことが明らかになっています。阪神淡路大震災、東日本大震災の時もそうでしたが、新聞業界は、危機や逆境にさらされた時、それが大きければ大きいほど社内で、または業界内で団結力が増し、迅速な対応を行えるという印象を持っていました。今回もまさにそれが実証された印象です。報道機関に携わるものとしての使命感、そういうものが逆境になるほど強く前面に出てくるのだらうと思います。

新型コロナウイルスは働き方も大きく変えました。先日ウェブ会議に参加したところ、メンバーの一人は走行中の新幹線の中から参

加していました。社有スマートフォンのテザリング機能を使って接続し、トンネル内でもコマ落ちすることもなく快適に通信できました。テレワークの環境整備により移動時間自体も減りましたが、移動時間そのものを活用できるケースも生まれています。在宅勤務も当たり前となり、往復の通勤時間を削減できるので好評です。1年前には想像もできなかったことですが、もう後戻りはできません。一方で、雑談する時間が減り、インスピレーションが得られる機会が減っているという課題も指摘されています。長期的にどのような影響が出るかは分かりませんが、いろんなことにチャレンジし、駄目だったら修正する、今はそういう局面なのだと思います。

*

経営的にはまだまだ厳しい状況が続きます。そういう状況だからこそ、チャレンジの継続が求められていると考えます。新聞協会では昨年、新聞製作講座を初めてオンラインで実施し、成功を収めることができました。CONPTでは今秋オンライン展示会を計画されています。これらのチャレンジだけでなく、何か新しいことに取り組もうとすると、技術の力が求められる場合がほとんどです。技術なしには新たなチャレンジは難しいと言ってもいいと思います。生産体制をさらに効率的で低コストにするというチャレンジ、紙とデジタル、各種イベントのサービスを融合し読者満足度を上げるチャレンジ、新たな仕組みや枠組みでスポンサーの利益向上に貢献するチャレンジ。様々なチャレンジが求められています。CONPT加盟社と新聞社が力をあわせ、逆境を跳ね返し、活路を見出す年。2021年はぜひ、そのような年にしていきたいです。

ピンチはチャンス「4つのT」

コロナに負けない!

東日印刷 T-pro シニアエディター

瀧永 秀一郎

東日印刷は13セットの輪転機を保有し、毎日新聞やスポーツニッポン、聖教新聞、東京スポーツ、日刊ゲンダイなど朝夕刊紙のほか、各種広報紙・誌など約40媒体を手掛ける日本最大級の新聞印刷会社です。

とはいえ、このコロナ禍で商業紙の印刷部数は減り、広告の減少に伴ってページ数も減るなど、経営への影響は小さくありませんでした。

◎各部横断 まずネット通販

このピンチを救ったのが、普段は縁の下の力持ちとして会社を支える間接部門、総務部を中心とする各部横断の取り組みでした。

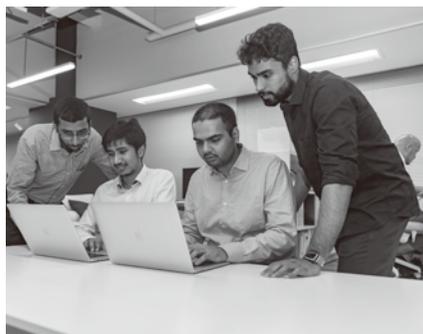
「ピンチはチャンス! 前を向こう」という武田芳明社長の号令の下、まず動いたのが、昨年発足したネット通販チーム。「今、売れるもの」「必要とされているもの」をリサーチして取引先に働きかけ、たどり着いたのが、人体に無害で消毒効果の高い次亜塩素酸水「除菌水」です。春先の感染拡大期、アルコール消毒液が店頭から姿を消す中で、安定供給を受けられる製造元を開拓し、楽天市場にある当社通販サイト「T-BOX」で売り出したところ、注文が殺到します。

さらに、マスク不足の中「暑くなるこれから、冷涼効果のあるマスクを作れば売れる」と、取引企業に持ち掛けて開発したのが「クールコアマスク」。水



で濡らせばマイナス10度の冷感が得られる、という宣伝効果もあって、販売累計8万枚を突破するヒット商品になりました。

この間、ネックとなった注文処理と発送の迅速化では、社内の技術部門がシステムを開発するなどバックアップし、通販部門だけで今年度上期、前年同期を約1億円上回る売り上げで貢献しました。



デジタル事業の中核を狙うインド工科大卒のエンジニア陣

◎デジタル事業やロケ誘致

また、「将来の経営の柱の一つに」と設けたデジタル事業部門「T-NEXT」は同時期、インド工科大卒のエンジニア陣が名刺管理アプリ「ネクスタメイシ」の開発を加速。リモートワーク時代に必須の「オンライン名刺交換機能」を追加して製品版をリリースし、印刷受注先や大学など既に数十社・組織の利用が始まっています。

このほか、やはり昨年から始めた、本社社屋をドラマやCM撮影などに貸し出す「Tロケ」事業も、緊急事態宣言中の休止期間を経て再開。それまで止まっていた撮影の遅れを取り戻そうと、申し込みが相次ぎました。

このため、総務などのスタッフだけでは対応が厳しくなり、社員からロケスタッフを迫

加公募。印刷や制作などの現業部門からも協力の申し出があり、時には夜間や早朝、土・日・祝日も行われる撮影対応に当たっています。



ロケの申し込み急増で「Tロケ」チームは急ぎよ増員

さらに11月には福島県猪苗代町とロケ誘致事業で提携し、現地で調印式を行いました。東日印刷が窓口となって猪苗代に映画やドラマ、CM撮影などのロケを招致し、町の発展に寄与する目的で、当社としては初の取り組み。自治体と民間企業が共同でロケ地提供事業を行うのは全国でも珍しく、調印式で前後公(ぜんご・ひろし)町長は「町の地方創生、産業振興に寄与し、さらなる活性化につなが

ると確信しています」と歓迎。ロケ事業の輪は社外にも広がり始めました。

◎書籍編集にも進出

もう一つの「T」、制作局内に設けた編集プロダクション「T-pro」は、毎日新聞OB記者や社内育成の編集デザイナーによるチームで、こちらも各種広報紙のほか、今年度新たに書籍編集業務などにも進出。T-BOX、T-NEXT、Tロケも含めた「四つのT」（東日の新規事業）で、コロナ禍に立ち向かっています。

「Tは四つで終わりじゃない。ますます増やして、いつかは『印刷“も”やっている会社』にしないと、な！」。社長の発破も拡大中です。

3密回避、テレワーク…。昨年は新型コロナウイルス感染防止に奔走した年でした。一方で企業は、「コロナに負けたくない！」と工夫を重ねています。こうした新聞界からの報告を不定期で紹介します。

日本新聞協会の第73回新聞大会が11月26日、神戸市の神戸ポートピアホテルで開かれた。新聞、通信、放送各社の代表者ら約300人が参加、「課せられた責務をあらためて認識し、国民の安心・安全な生活に寄与するとともに、公共的な使命を果たしていくことを誓う」との決議を採択した。

今年の大会は、新型コロナウイルスの感染が広がるなか、参加者の規模を縮小、会場も席間隔を広くとるなどの感染防止策をとって開催された。

日本新聞協会の山口寿一会長(読売新聞東京本社社長)は開会挨拶で、「この大会を通じて、新聞が今の危機をどのように乗り越えるか情報を共有するとともに、コロナ禍の先にある新たな時代の新聞の使命と役割についても考えたい」と語った。

今年から編集部門に絞って表彰されること

新聞大会、神戸市で開催



になった新聞協会賞は、日本放送協会の「戦没者遺骨の取り違え公表せず」の一連のスクープ、神戸新聞社の「教員間暴力のスクープと神戸の教育を巡る一連の報道」など6件、新聞経営賞は熊本日日新聞社の「小中学生新聞『くまTOMO』」の登録会員とICTを活用した取り組みに贈られた。新聞技術賞は該当がなかった。

記念講演には大リーグなどで活躍したイチロー氏が登場。「スポーツが持つチカラ」と題し、三田友梨佳フジテレビアナウンサーとのインタビュー形式で、オリックス・ブルーウェーブ時代や大リーグでの経験を語った。

研究座談会のテーマは「コロナ禍と新聞編集、新聞経営上の課題」。山口会長をコーディネーターに、飯塚浩彦産経新聞社社長、小田敏三新潟日報社社長、高梨柳太郎神戸新聞社社長、柴田建哉西日本新聞社社長がパネリストとして登壇し議論を交わした。

歳万事楽

海外旅行

信濃毎日新聞社 製作局 塩尻製作センター
印刷部長兼総務課

高橋 裕喜

10年ほど前まで海外はもちろん、県外や遠方の旅行なども極力控えてきた。というのも30代前半で電験三種(第三種電気主任技術者)の資格を取得してから、電気設備などの保守や管理を任せられているからだ。先輩の姿を見ているうちに必然的に遠出は控えるようになった。しかし、ここ最近では本社の施設管理課を中心に協力を得るようになり、「何かあればお願いします!」と言って遠出する機会が増えた。

*

手始めは2009年(平成21年)に新婚旅行で訪れた米領のグアム。私は旅行の計画はしない性分で、妻がすべて手配してくれた。ところが泊まったホテルで、水道工事の影響で水が出ない“事件”が発生。シャワーもトイレも使えず、別のホテルに案内されて入浴した。「このままだとこの先も大変なことになる」と思い、ホテル側と交渉。幸い妻は海外留学の経験があり、英語が堪能なので心強い。その結果、通常では手の届かない高級ホテル最上階の角部屋に変更してもらえた。とても素晴らしい部屋で、眺めもよく快適に過ごした。

12年はゆっくり過ごしたい思いがあり、サイパンに向かった。事前に申し込んだツアーでは戦争の爪痕を中心に観光。現地でも知り合ったバングラデシュ人のコーディネーターがとても親切で、あらゆる所を案内してくれた。「俺のランクル(ランドクルーザー)で案内するぜ!」と言っていたが、いざ乗り込んだら小ぢんまりした日本車だった。

その年は塩尻製作センターの10系列輪転機更新工事があり、8月から12月までかなり忙

しかった。そこで翌1月、支えてくれた妻と一緒に自身初のハワイへ行くことにした。だが出発当日、数年に一度の大雪のため羽田に向かうタクシーが運行できないという。慌てて電車に乗り、何とか空港に到着したものの飛行機が飛ぶかは分からない。

「初ハワイで初ビジネスクラス。ぜひ行きたい」。そう強く願ったところ、幸いなことに飛行機は無事に飛び立った。現地のツアーでは他にお客がなく、車は一日じゅう貸し切り状態になり隅々まで案内してもらった。ノースショアでガーリックシュリンプを食べ、有名な「マツモトシェーブアイス」でオーナーのスタンリーさんと会話をして満足。隣の「アオキシェーブアイス」にも行った。日本のテレビ番組で「ぬしかん(神主)さん」として有名なハワイ出雲大社を訪れて初詣もできた。

*

その10カ月後、再びハワイへ。電動自転車に乗って全米ナンバーワンにも選ばれたラニカイビーチに行った。海を眺めながら途中のコンビニで買ったサンドイッチを食べたところ格別の味。以前から行ってみたかった真珠湾では、今なお海中に沈む戦艦「アリゾナ」から油が流れ出ているのを見て胸が痛んだ。

シンガポール経由でモルディブを訪れたのは14年。初めて利用したシンガポール航空のビジネスクラス機内が突然暗くなり、バースデーケーキが私のもとに運ばれてきた。突然の出来事にびっくり。ちょうど私の誕生日であり、妻からのサプライズだった。客室乗務員もとても親切で、もう一度搭乗したいと思った。

インド洋に浮かぶ「一島一リゾート」の楽園で水上コテージに宿泊し、のんびり過ごした。バルコニーにジャグジーもあり、何もしないぜいたくざんまい。サンドバーやおいしい食事を楽しみ、波の音を聞きながら眠り波の音で目覚める、まさに楽園だった。「また来るね」とインド洋に約束し、帰りはシンガポールに

寄ってマーライオン3体を見た。世界最大級の観覧車「シンガポールフライヤー」からは自動車レースのF1が終わったばかりのコースやピットの片付け作業も眺めることができ、ファンとしてたいへん光栄だった。



そして17年に3年ぶりのハワイへ。「この～木なんの木、気になる木」で有名なパワーツリー（写真）の下で食べた揚げパンの「マラサダ」がおいしかった。私は現地のツアーは必

ず申し込むようにしているが、この時も大成功。時間があまりない中でなるべく多くのツアーに参加し、その中で自分たちに合った場所を見つけ出し、後でゆっくり回るのが目的だからだ。

*

これ以降は海外旅行に行っていないが、いま考えてみるとこれだけの回数を行っておいでよかったと思う。仕事の責任は海外旅行を始めた頃よりも重くなっているが、コロナ渦が終息したら長期休暇を取ってのんびりしたい。まだ早いと言われるかもしれないが、足腰が丈夫なうちにできるだけ旅をしたいという思いもある。この原稿の執筆に当たり、妻と一緒にした旅行をもう一度振り返ることができたことは望外の喜びだ。次に海外へ行くとしたら、妻が留学したオーストラリアの街並みをぜひとも見てみたい。

信州蕎麦の草笛（長野駅）

長野県のお蕎麦屋さんを紹介します。信州そばで有名な手打ちのお店なので、ご存じの方も多いかも知れません。

長野県を担当させていただく際に、上司から最初に教えてもらった食事処。店はJR長野駅から徒歩10分とか



数年前に出店した長野駅店

からないバスターミナルの地下にありましたが、数年前に長野駅に出店、さらに利用しやすくなりました。

食へのこだわりがなく、決してグルメとは言えない私ですが、長野出張の際には立ち寄ってしまいます。

看板メニューは、くるみ蕎麦。最初は、くるみダレがそばに合うのか半信半疑でしたが、濃いめのつゆと甘いくるみが癖にな

パナソニックシステムソリューションズジャパン

美味あつちこつち



泉原 正和

くるみ蕎麦。1,100円(税込)

りました。食欲をそそります。

おすすめの食べ方は、最初はそばにつゆだけ、途中からつゆの中にペースト状のくるみを溶かして入れます。そうすることで2つの味が楽しめます。

そばの量が多く普通盛りで400gあり、蕎麦湯をいただく頃には満腹となって、午後からの仕事に支障がないか心配になることも…。

長野に立ち寄った際は、ぜひくるみ蕎麦をご賞味いただきたい！

わが職場

よっしゃ！ 下流から元気を発信

朝日プリンテック 技術センター長 梶原 浩史

「朝日プリンテック」が朝日新聞社100%出資の新聞印刷会社であることはご存じの方も多いと思いますが、当職場「技術センター」は、ご存じない方が多いのではないのでしょうか。

私たちは、朝日新聞製作の下流工程における①新技術・新材料の導入支援②技術者の養成③印刷品質の評価、向上に関する業務支援、といった業務を受託しています。2020年春からは、朝日新聞を印刷する全27工場の月報の集計や、紙面品質と安定発行に関する指標を集計して評価する仕事などが追加されました。①については、朝日新聞社と連携しながら網点の高精細化、GCRの導入、CTP更新対応、減斤紙・高濃度インキ・ケミカルレスプレート・無処理プレートなどの新資材の検証と導入などを行って来ました。②については、プリンティングアカデミーという勉強会や技術情報紙による発信を行っています。コロナの折、アカデミーは今年度からオンライン講義としました。③については、紙面品質の社内評価、社外評価のコーディネートやモニタープルーフの色管理などを行っています。

また、朝日新聞社に提案する形でローラ再生装置やブランケット復活装置などのコストダウンに貢献する機器の共同開発、朝日プリンテック主体の業務として、品質コンサルタント、受託媒体のCTP設定、受託媒体用の紙プルーフの色管理なども行っております。

多岐にわたる業務に気が遠くなることも多いですが、事あるごとに「よっしゃ！集中！」と叫ぶわが職場の次長のように、下流から元気を発信する組織でありたいと思います。

一般社団法人化を決議

第46回年末全体会議

日本新聞製作技術懇話会(CONPT)は12月18日に開いた第46回年末全体会議で、現在の任意団体から一般社団法人(非営利型)に組織変更することを決議した。4月1日付発足をめざし手続きを進める。

会議には日本新聞協会から土井昭人技術委員会委員長(毎日新聞社)、菊地彰編集制作部技術・通信担当主管を来賓に迎え、会員30社33名(オンライン参加7社7名)が出席した。開会挨拶で木船正彦CONPT会長は、「新しい年にはデジタル関連技術を高度化して発信したい」と強調するとともに、「懇話会の法人化によって存在意義をさらに高めたい」と語った。土井技術委員長は「コロナ禍で働き方は大きく変わった。2021年はチャレンジの年、技術あつての改革である」としてCONPT企業のもつ技術力に期待を表明。菊地主管はCONPTが2021年秋に計画するオンライン展

示会への期待を語った。

今後の事業計画については、CONPTオンライン展示会の他、新聞社との技術対話や工場見学会などの活動を、コロナの状況をみながら実施していくことを決めた。

会員消息

■担当者変更

*日本アイ・ビー・エム(株)(12月1日付)

[新]佐藤 博英氏(通信・メディア・公益事業部メディア営業部営業担当部長)

[旧]森川 賢一郎氏

■所属会社変更

*東洋インキ(株)・新聞部門は、1月5日より東洋インキグラフィックス(株)に所属が変更になりました。

<お悔やみ>

小股 文雄氏(こまた・ふみお) CONPT会友(元東芝)。令和2年9月20日死去。68歳。平成19年5月から22年5月まで広報委員長、続いて23年12月までクラブ委員長を務めた。

日本新聞製作技術懇話会 会員名簿 (42社) 2021年1月現在

社名	〒番号	所在地	連絡先
株イワタ	101-0032	東京都千代田区岩本町3-2-9	03-5820-3161
株インテック	136-8637	東京都江東区新砂1-3-3	03-5665-5097
NECプラットフォームズ(株)	270-1198	千葉県我孫子市日の出1131	04-7185-7722
株加貫ローラ製作所	544-0005	大阪府大阪市生野区中川5-3-13	06-6751-1121
キャノンプロダクションプリンティングシステムズ(株)	108-0075	東京都港区港南2-13-29 キャノン港南ビル	03-6719-9700
株金陽社	136-0082	東京都江東区新木場1-1-1王子木材緑化ビル1F	03-3522-3600
株KKS	555-0011	大阪府大阪市西淀川区竹島4-11-54	06-6471-7771
コダック(同)	140-0002	東京都品川区東品川4-10-13KDX東品川ビル	03-6837-7285
コニカミノルタジャパン(株)	105-0023	東京都港区芝浦1-1-1浜松町ビルディング	03-6311-9061
サカタインクス(株)	112-0004	東京都文京区後楽1-4-25日教販ビル	03-5689-6666
株システマック	520-2277	滋賀県大津市関津4-772-17	077-536-3131
清水製作(株)	108-0023	東京都港区芝浦3-17-10	03-3451-1261
ストラパック(株)	221-0864	神奈川県横浜市神奈川区菅田町2800	045-475-7229
西研グラフィックス(株)	842-0031	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町吉田135	0952-52-8634
第一工業(株)	335-0002	埼玉県蕨市塚越7-2-8	048-441-3660
田中電気(株)	101-0021	東京都千代田区外神田1-16-9	03-3253-2816
椿本興業(株)	108-8222	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル30階	03-6718-0151
株椿本チエイン	108-0075	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル17階	03-6703-8402
DICグラフィックス(株)	103-8233	東京都中央区日本橋3-7-20 ディーアイシービル	03-6733-5067
東京インキ(株)	114-0002	東京都北区王子1-12-4 TIC王子ビル	03-5902-7625
株東京機械製作所	108-8375	東京都港区三田3-11-36 三田日東ダイビル6F	03-3451-8141
東芝デジタルソリューションズ(株)	212-8585	神奈川県川崎市幸区堀川町72-34 ラゾーナ川崎東芝ビル5階	044-331-1096
東洋インキグラフィックス(株)	173-0003	東京都板橋区加賀1-22-1	03-3963-2534
東洋電機(株)	480-0393	愛知県春日井市神屋町字引沢1-39	0568-88-6401
東和電気工業(株)	104-0032	東京都中央区八丁堀1-7-7 長井ビル6F	03-6222-5005
ニッカ(株)	174-8642	東京都板橋区前野町2-14-2	03-3558-7861
日本電気(株)	108-8001	東京都港区芝5-7-1 NEC本社ビル	03-3798-4666
日本アイ・ビー・エム(株)	103-0015	東京都中央区日本橋箱崎町19-21	03-6667-1111
日本アグファ・ゲバルト(株)	141-0032	東京都品川区大崎1-6-1 大崎ニューシティビル1号館5階	03-6420-2010
日本新聞インキ(株)	210-0858	神奈川県川崎市川崎区大川町13-8	044-589-3500
日本ボールドウィン(株)	108-0023	東京都港区芝浦4-9-25 芝浦スクエアビル11階	03-5418-6121
パナソニックシステムソリューションズジャパン(株)	224-8539	神奈川県横浜市都筑区佐江戸町600番地	045-938-1613
株日立産業制御ソリューションズ	110-0006	東京都台東区秋葉原6-1	03-3251-7242
富士通(株)	105-7123	東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター	03-6252-2625
富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ(株)	106-0031	東京都港区西麻布2-26-30富士フイルム西麻布ビル	03-6419-0421
富士薬品工業(株)	176-0012	東京都練馬区豊玉北3-14-10	03-3557-6201
方正(株)	162-0821	東京都新宿区津久戸町1-8 神楽坂AKビル9F	03-4346-6600
マンローランドゴスウェブシステムズジャパン(株)	350-1328	埼玉県狭山市広瀬台3-7-4	04-2954-1093
三菱重工機械システム(株)	729-0393	広島県三原市糸崎南1-1-1	0848-67-2068
三菱製紙(株)	130-0026	東京都墨田区両国2-10-14両国シティコア	03-5600-1595
ミューラー・マルチニジャパン(株)	174-0042	東京都板橋区東坂下2-5-14	03-3558-3131
明和ゴム工業(株)	146-0092	東京都大田区下丸子2-27-20	03-3759-4621

CONPT